



かわいい顔して毛がすごい!

アゲマエ

かわいい系夫人気アイドル
脱いでみたら実は剛毛だった件!
受精パート!

温泉で生ハメっ生中出しっ

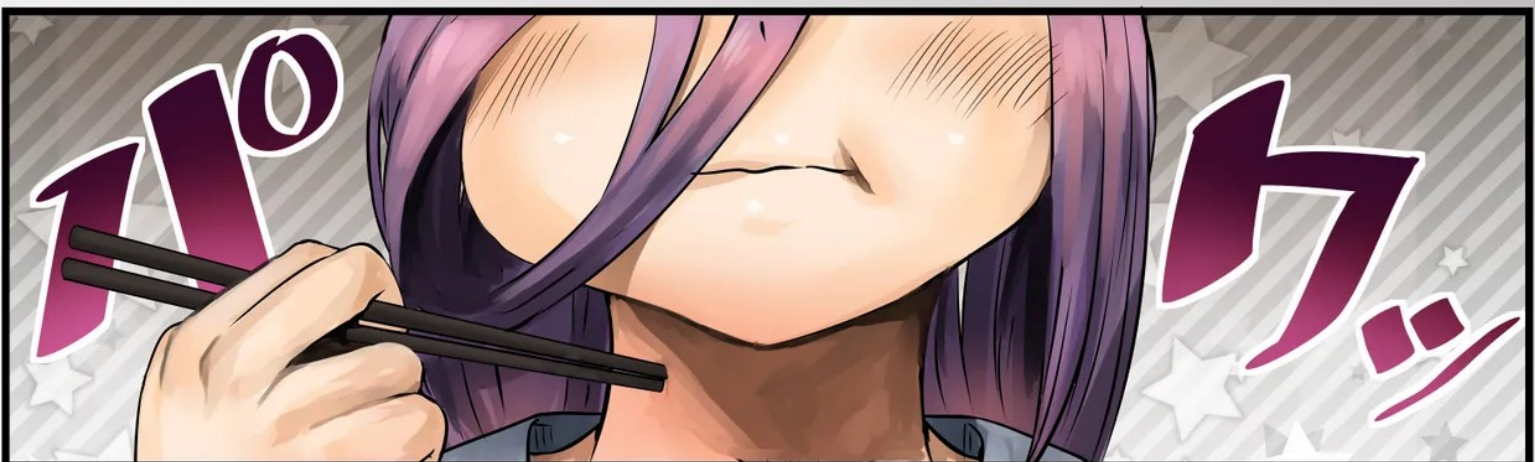
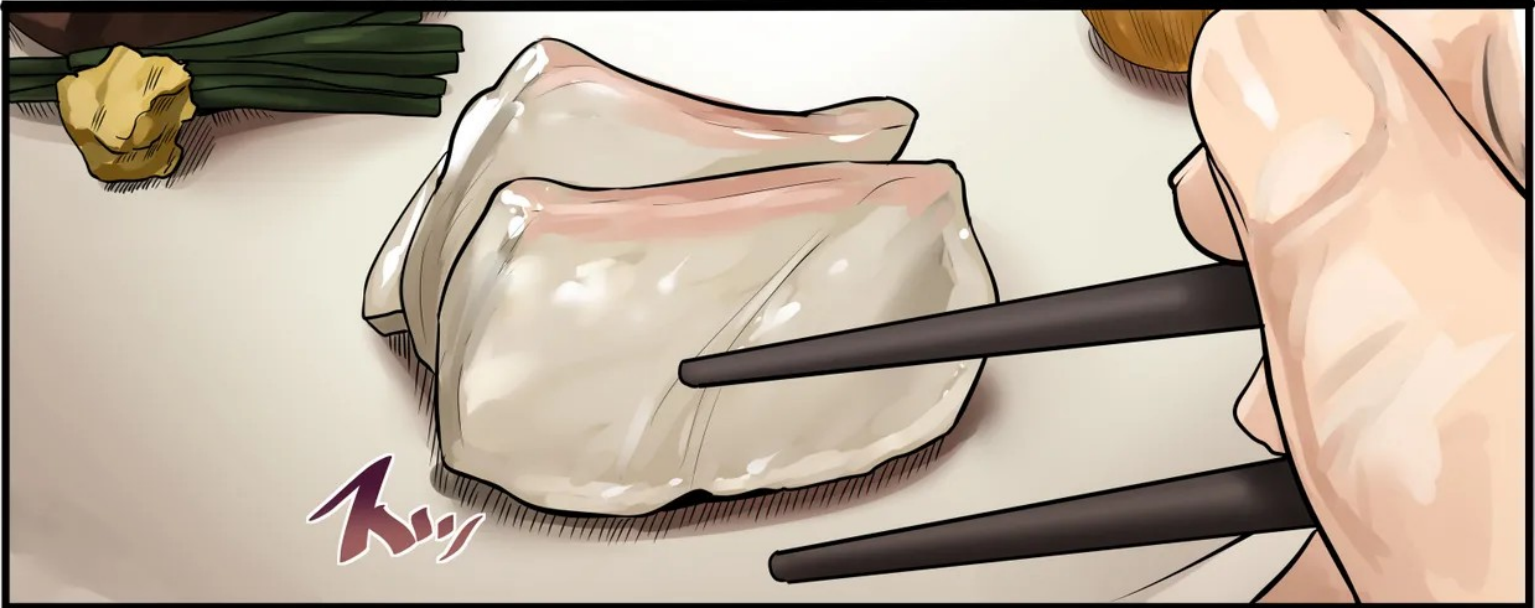
お
お
お

フルカラー漫画パート 29P
CG形式作品パート 11P+差分



高田アイドル総合事務所
山本事務所 営業部

御一行様







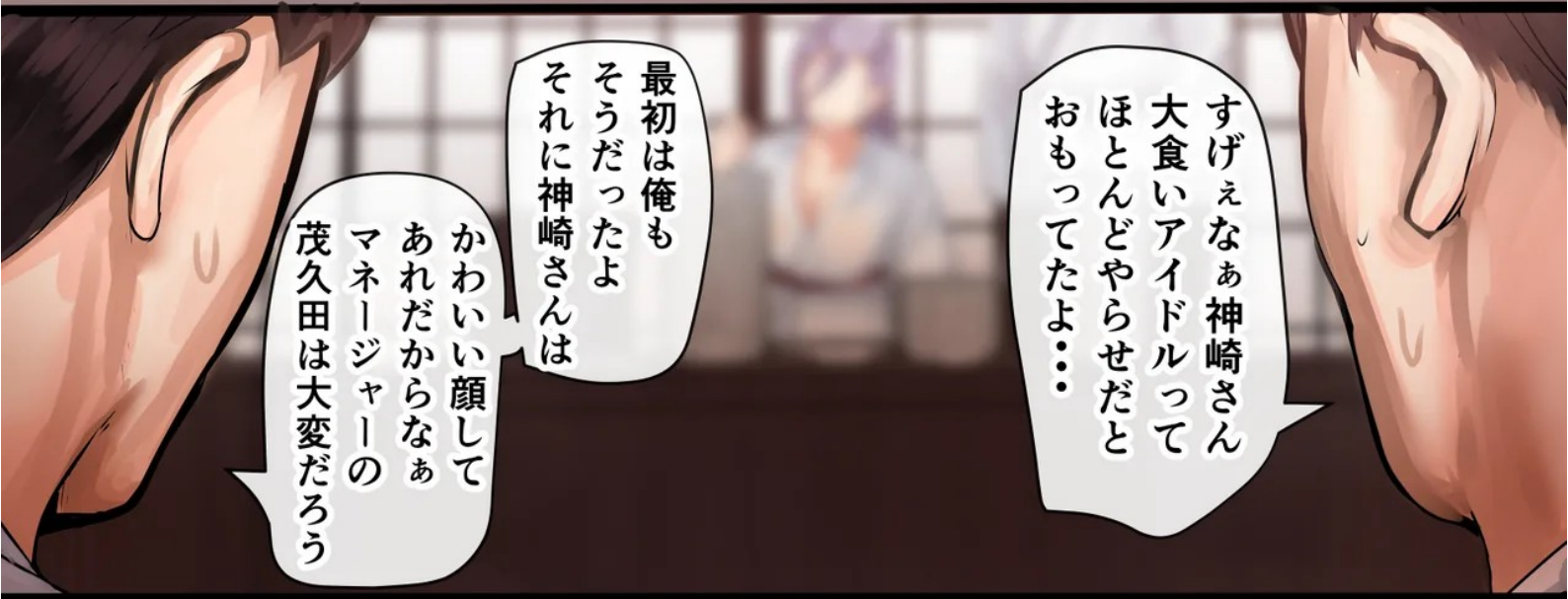
モグ
モグ
モグ

モグ

ン



おかわりっ
お願いします！



最初は俺も
そうだったよ
それに神崎さんは

かわいい顔して
あれだからなあ
マネージャーの
茂久田は大変だろう

すげえなあ神崎さん
大食いアイドルって
ほとんどやらせだと
おもってたよ・・・





そ…それに
着物はちゃんと
着てください

みんなにジロジロ
見られてましたよっ



だから言った
じゃないですか

食べ過ぎないで
くださいって

ご…
ごめん



ええ〜一番ジロジロ
見てたのはもっくん
のような気がするけど



あれなんでしょ…?
私のおっぱいみて
興奮してたん
でしょ…?

もっくんの変態いっ
わたしアイドルだよっ!



なっかな…なに
バカなことやってんすか
そそ…そんなこと
ないですよっ!

み…水持ってくるんで
ちゃんとおとなしく
しててくださいよっ





ド

ッ

あっ!

ド

ド

ド

す…すいません
神崎さん
わざとじゃ…

…

いいよ…ッ
もっくんとなら

えっ…
な…何がです？

だ…だから…
あの…えっ…
エッチしても

いいよって
いってるの！

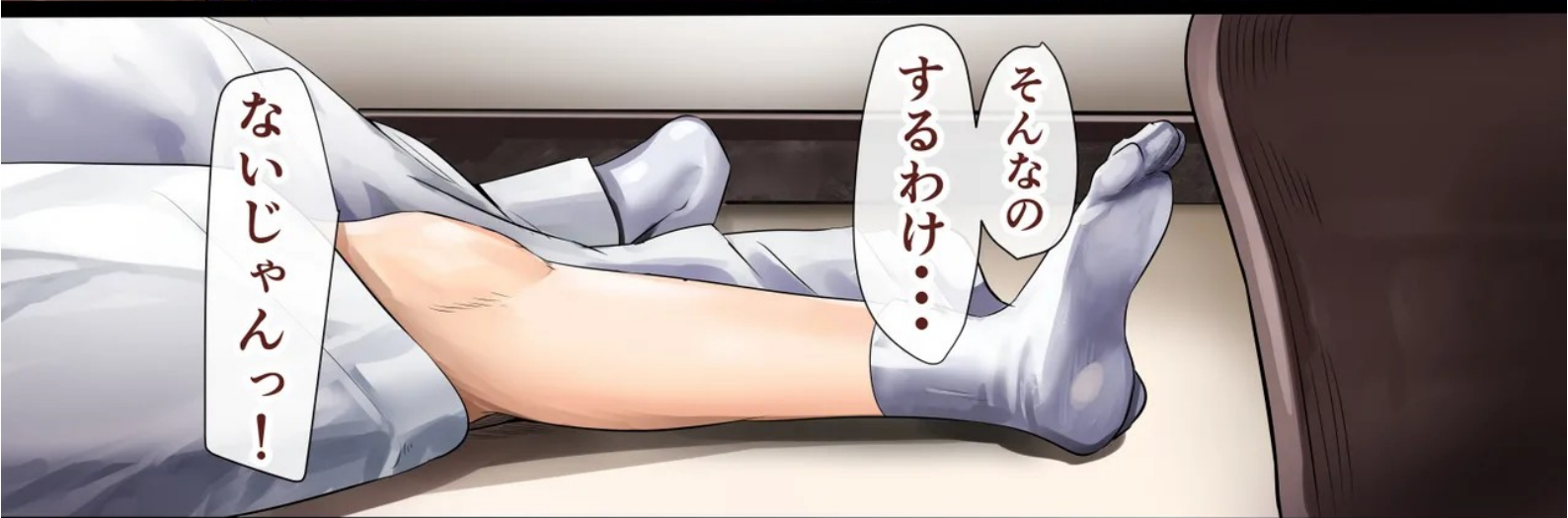
ええっ！

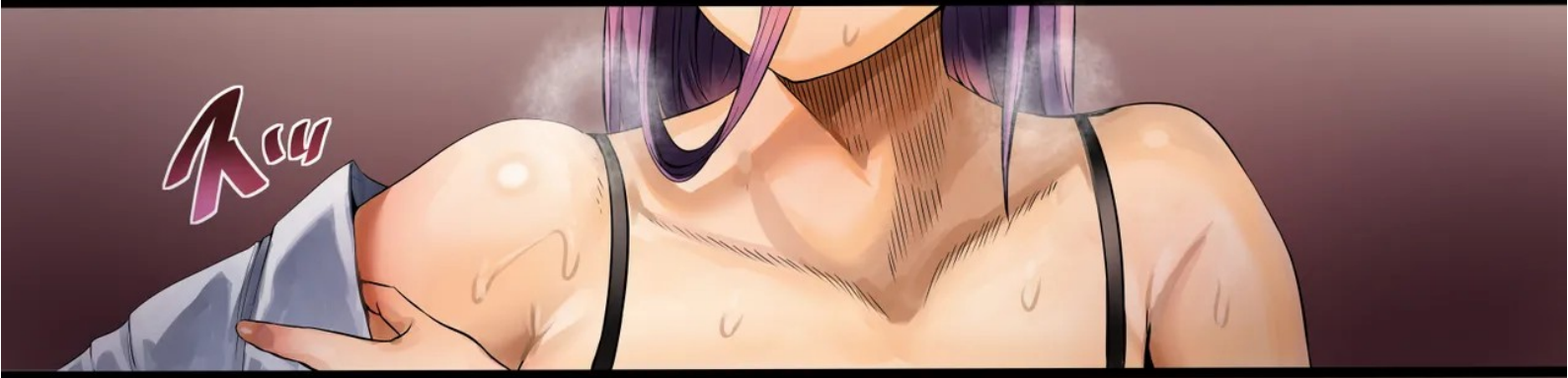
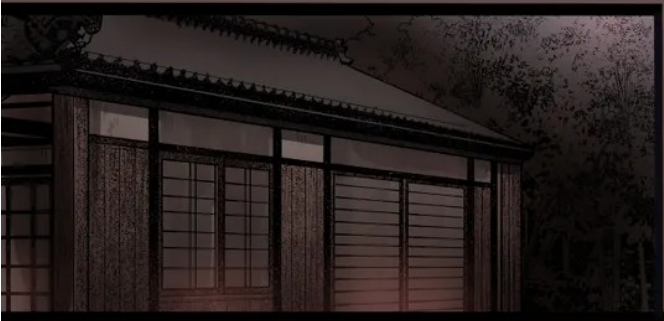
で…でも僕たちは
マネージャーと

アイドルの関係で…

もうっ！
うだうだ言ってるないで

私を抱きなさいよっ！











バツバカッ!!!

そ……
それは……



で……でも
どうして
そんなこと

知ってるん
ですか?



たくっ……

マネージャーが
これじゃあねえ



はあ……
今日も疲れた

んっ……
あれは……
もっくんの



数か月前

それじゃあ
お疲れ様です



かつ……勝手に携帯
見たって言える
わけじゃない

その……



こっ……
これ……

今日の動画は動画
リクエストの1つ



クチャクチャ

あ

は

ア

ア

んあっんうっ
つう...!





あッ
あッ

あッ

アッ
アッ
アッ

アッ

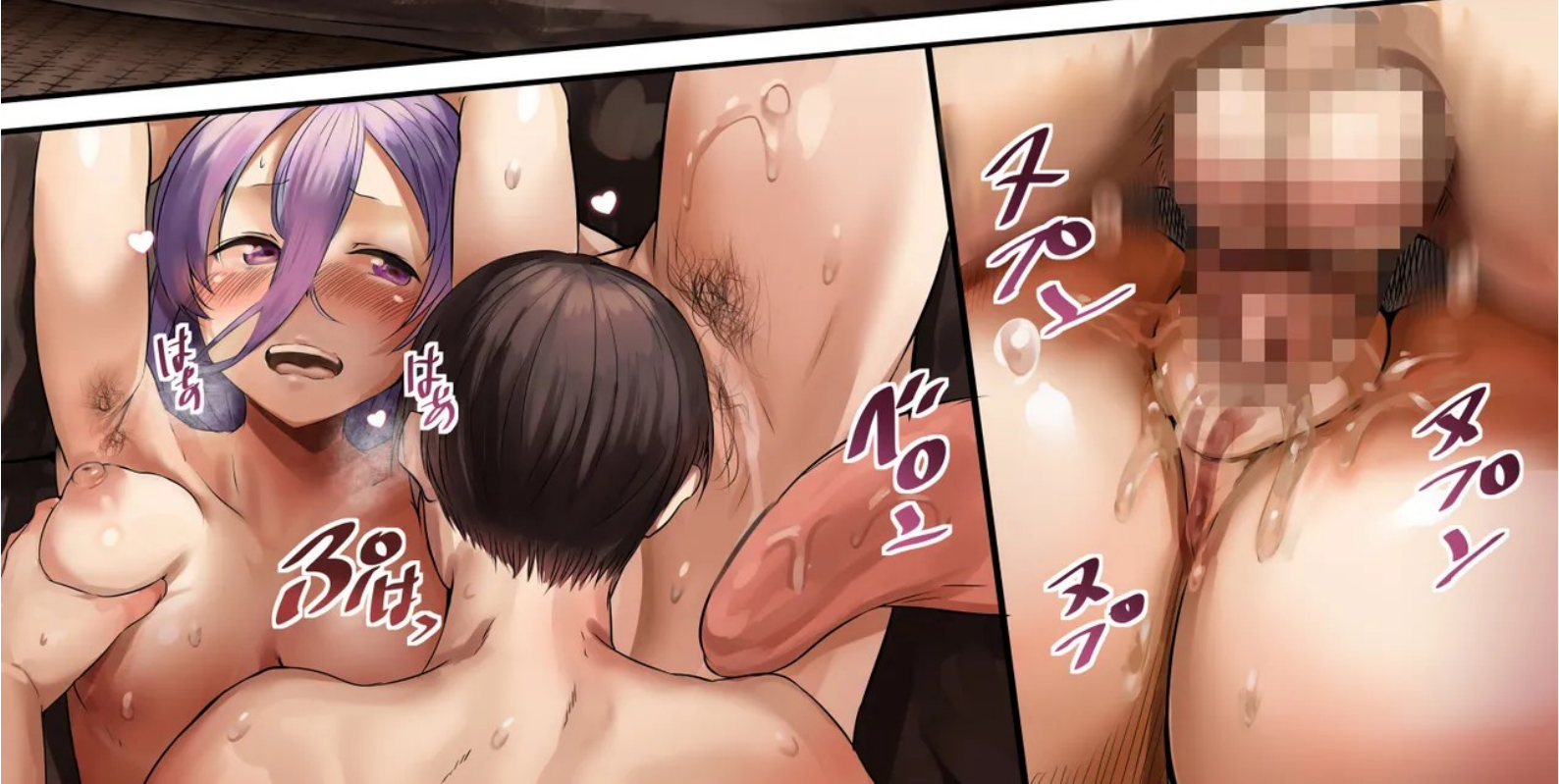
アッ

アッ

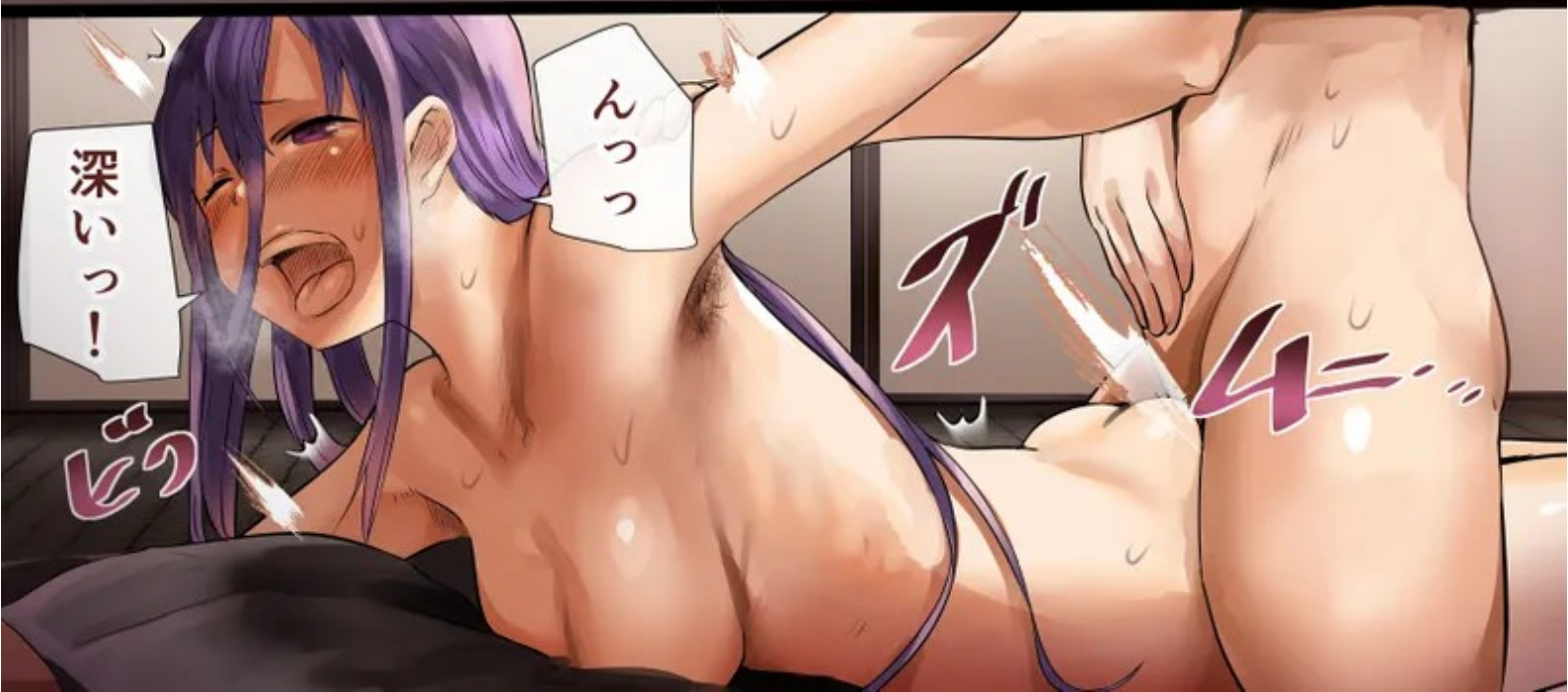
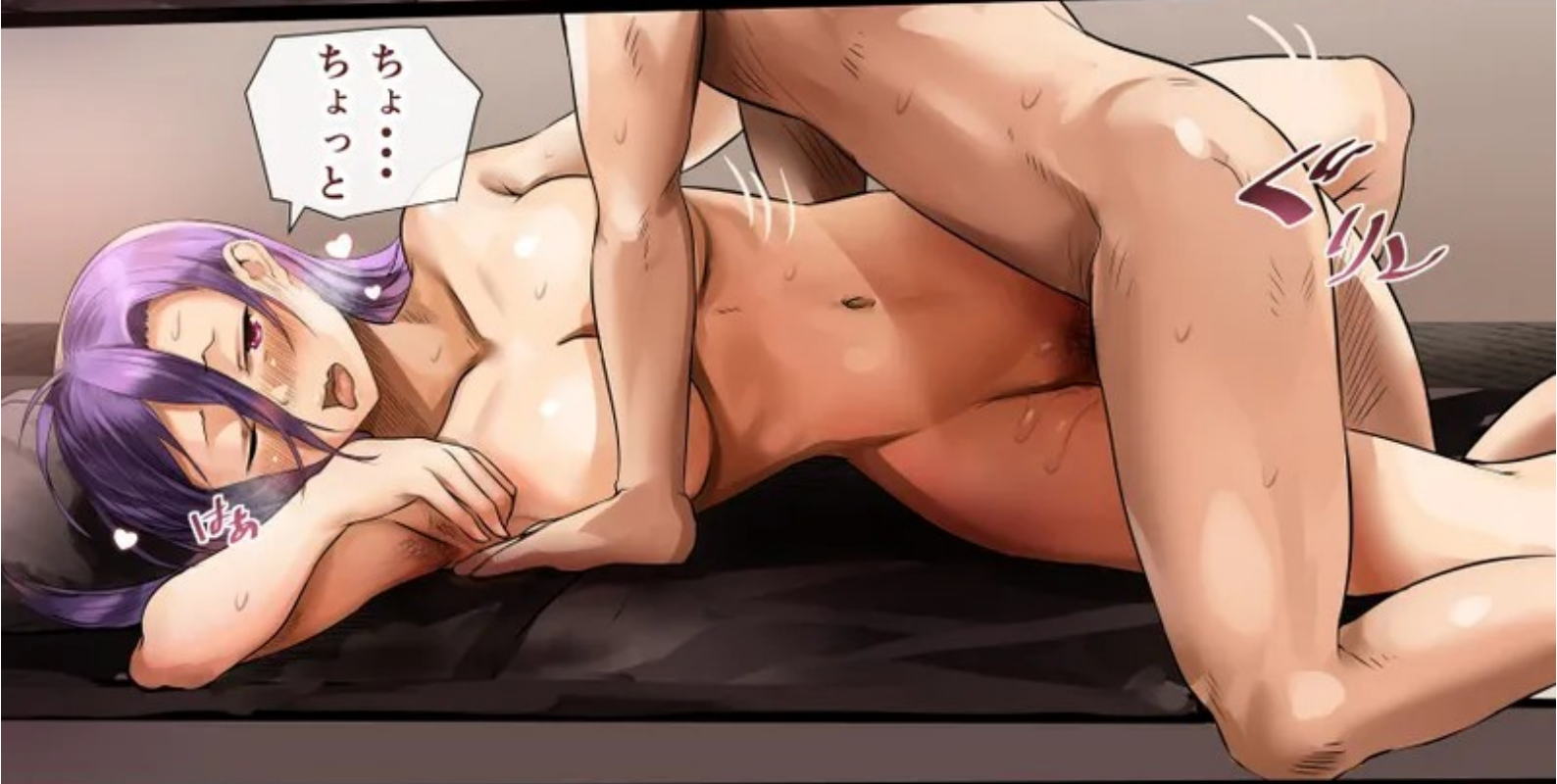
あッ
アッ
アッ

アッ

アッ
アッ









オナニーと全然違う
イキそう……

これがセックス……

子宮ノックされるの
やばいっ！
すげえ気持ちいい

アッアッ

アッ

アッ

アッ

アッ

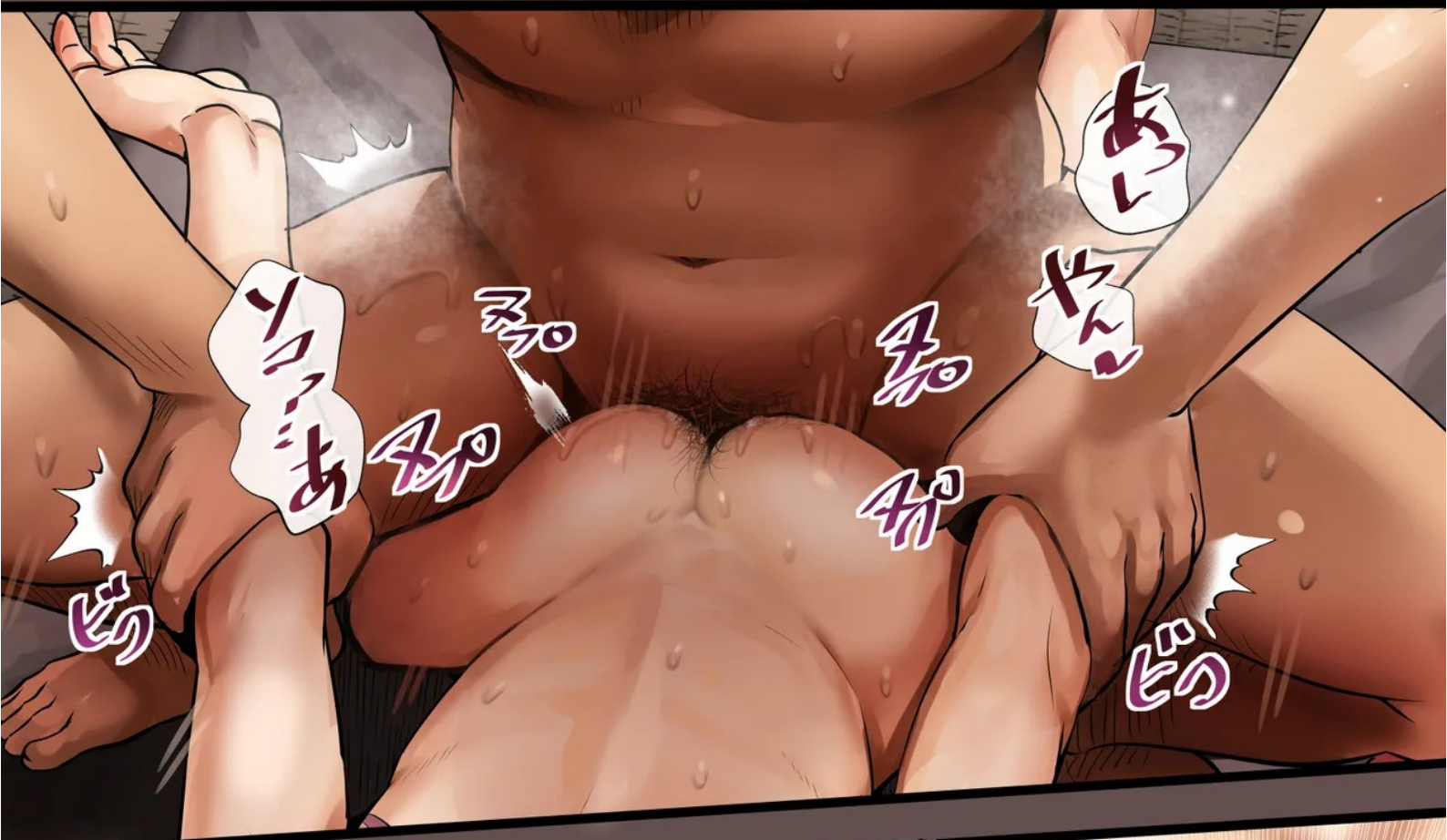
アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



ソコ...あ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



奥っ...すごっ
おちんちん
吸い込んでる

ガリッ



んんん

ズ

ズ



イクッ

はっ

あっ...もう無理...
イっちゃう
おしっこ...
でちゃうっ!

アッ





いい湯だったね〜

はるかちゃんも
入ればいいのに〜

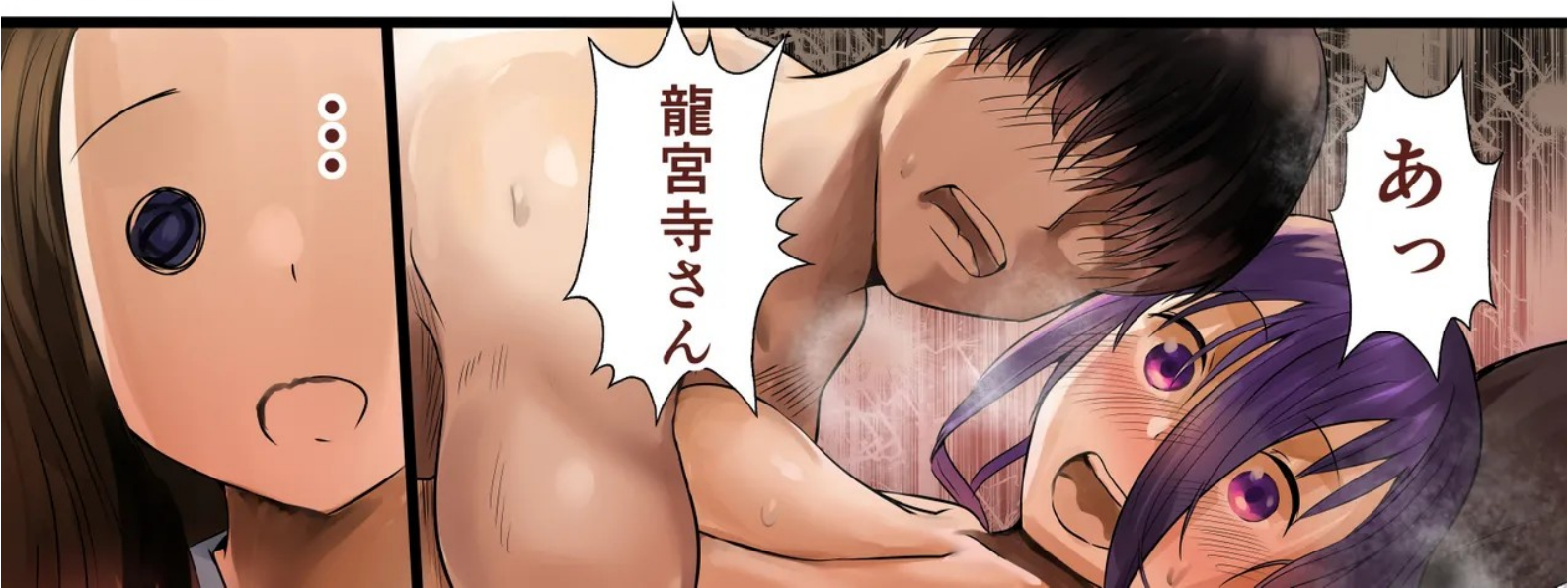
はるかちゃん
具合どうっ?

ガラッ

!?

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ



龍宮寺さん


あっ

...

ちよつと〜〜ツ
アンタたち何してんのツツ

い…いや…
これは…

その…



神崎と茂久田の情事が
龍宮寺に目撃されてから一刻……

二人は大浴場へ向かうため、
別館へ歩みを進めていた



渡り廊下を歩く二人

酔っ払い客で騒々しい本館とは裏腹に

そこに他の客はいない

木造の渡り廊下からは広大な庭を見ることができ
微かな月明かりの下、ただ虫たちの鳴き声と
二人の話し声だけが聞こえるだけであった。

「この大浴場ってすっごい
お肌がいいらしいんだー
どお？もっくんも私と一緒に女湯入る？」

「いや。。。女湯に入るのは無理ですって！」

「ええ〜いいじゃん。。。絶対人いないよ！」



「いやそういう問題じゃないんで……」

「ええ〜はいろいろよ〜」

「もう何言ってるんすか？犯罪ですよ！」

「週刊誌に記事でも書かれたらどうするんですか。マシで芸能生活終わりですよ。」

「えーそれはやだなー！」



「まっそれにしてもよかったですよ。
見られたのが竜宮寺さんで。」

「えっどうして？」

「あっもしかしてご存知ないですか？」
「意外ですね」

「もー何なのよ
教えてよー」



「絶対に絶対に秘密ですよ。
竜宮寺さんって……」

「実はうちの専務の息子さんと
付き合ってるですよ。」

「ええーっ!」

「二人とも25歳で
気が合ったんでしようねえ」



「この前、竜宮寺さんの楽屋に
お昼を届けにいっただんですが、
まあその、ノックするのを忘れてで、
しかもちようどお二人が……
致している途中でして……」

まあ今日の私たちと
同じような状況で……

それはまあ

大変なことになりましたよ

お二人は絶対に
秘密にしてくださいと……」

「当然その願いを了承しましたけど」

「へえーそんなことがあったんだあ

マジでいい事聞いちゃったよ」



「ちょっとちょっと絶対に言わないでくださいよ！
もし言ったら、

僕たちの関係もバラされちゃうんですから。
そうしたらまじで終わりですよ」

「神崎さんだけ
じゃなくて僕も
会社にいられなく
なっちゃうわけ
ですから。」

「ふん」

「もー言わないでくださいよー」

「はっはっはっ大丈夫！
言わないよー」



あつ。。。あれ見て



んっあれは……





家族風呂

湯

家族風呂あるよ！

「ああ。。。あれですか」

何でも宿泊者は無料で貸切利用できるらしいですよ。

使う場合はあの札を裏返して使用中にすればいいみたいですわね」

「へえーとどうこととはうちらはただで利用できるってことなの？」

「まあそうですね」



「やった！
もっ君今からいこーよ」

「ええッ!？」

「家族風呂ですよ」

ワ
ワ
レ

ワ
ワ

「つらつらとき竜宮寺さんに
えらいとこ見られちゃったのに……」



「さっきのもつくんの理屈なら
大浴場じゃなくて家族風呂なら
一緒にはいつてくれるんでしょ？」

「えっ……そ……それは」

「さっ！早く早く！」

「うん……」



「ちよ。ちよつと服脱ぐ間

むいり回らしてー!」

「はっはっはー!」

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

『ooo』

ハア

ハア

『あつ…
じゅっ準備出来たよ』



「さっきまで積極的だったのに
すごい照れだしてる
じゃないですか!」

「やっ。ちがっ。違っし
もっ君が私のこと
ヤラシー目で見えるから。。」



ハッ

ハッ

は

そりゃあ。。。見ますよー。。。
僕もおとこですし。。。

もっ君の。。。えっち。。。

ハア

ハア



『あーん』

ハア

ハア

『そっそっそれじゃあ
そろそろ行きましょーうか』

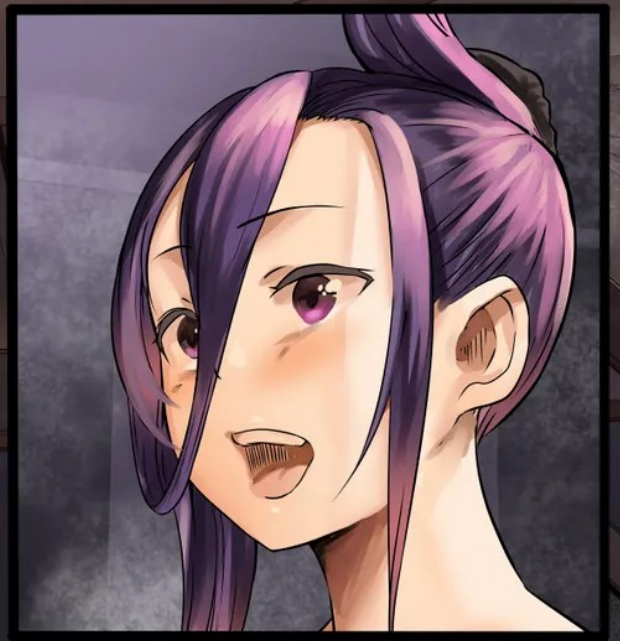


茂久田の下半身はむくむくむくつと
膨らみテント状になり、

はるかの下半身はねっとりとした
粘液が股をツーっつつたい
ぐっしよりと濡れていた

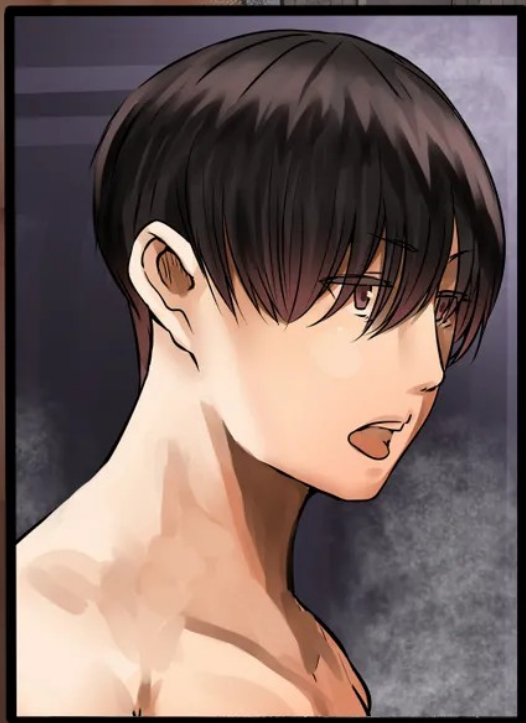




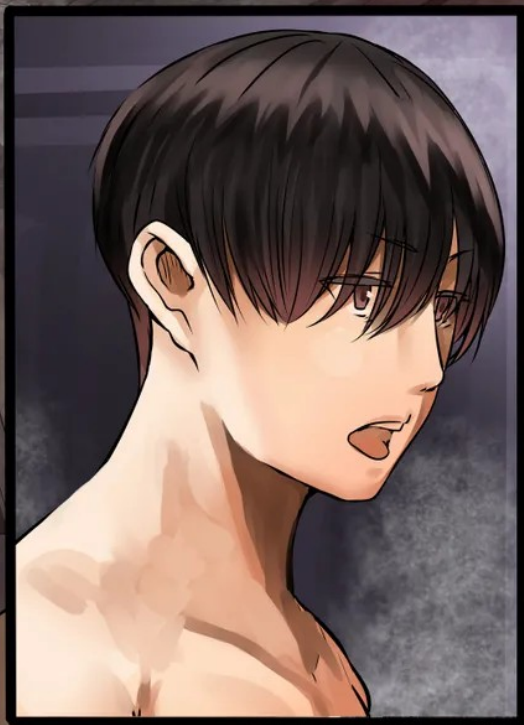


おおー
すごっ！
広いっ！

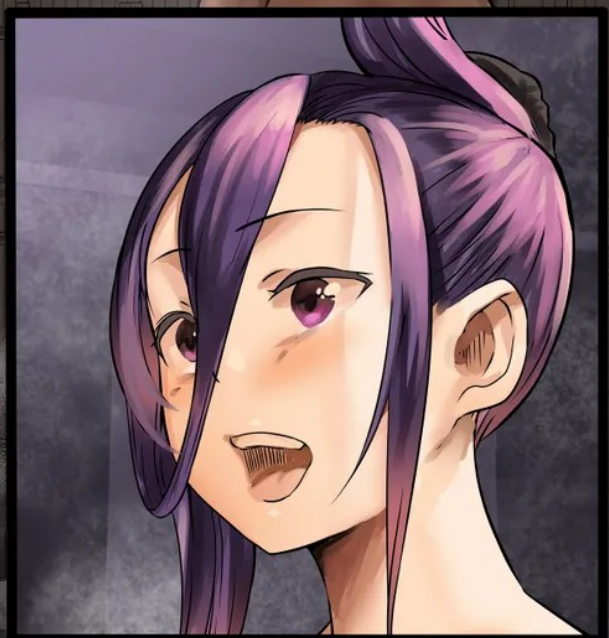
おおっ家族風呂に
してはかなり
広いですねー



ここも大浴場と同じく
美肌の湯らしくて、
お肌にいらいらしいですよ

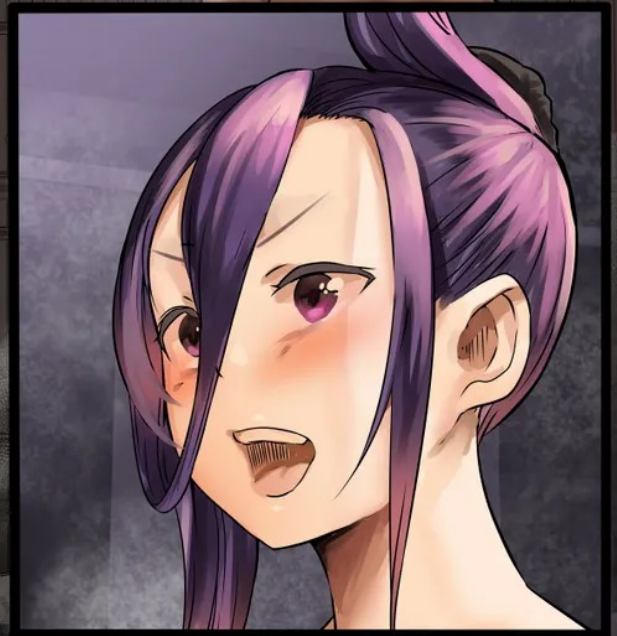


へえじゃあ
1日中入らなきやね



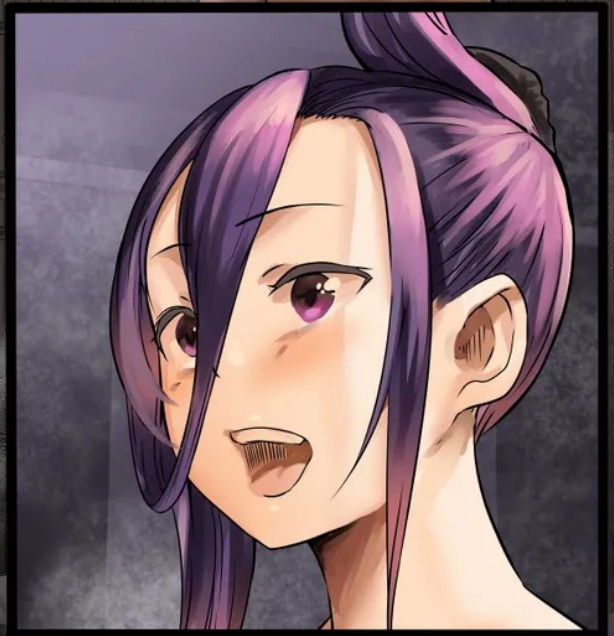
そんなに
入ってたらしわしわに
ふやけちゃいますよ！
アイドル失格です！

なんだってー！！



ほら、風邪ひいちゃいますよ
さっさと入りませう！

うん！





カポーン

いやーいい湯だねー


はっはい

そうですね

すごく。。。いい湯。。。です

ビキ

キキ



はるかさんの胸。。。すごい
さつき揉みしだいたのに。。。
全然足りない。。。

もっとあのやわらかい。。。
ましゅまるおっぱいに
むしゃぶりつきたいっ！



どーしたの？
わたしのこと
じっと見て

い：いえ
なんでも…

もっくん。。。
わたしのおっぱいジツと見てる。。。
さっきから股間のふくらみ
バレバレだけど隠してるし。。。。

もっくんの
えっちゅ

興奮してるだ。。。
やば。。。わたしも。。。
またえっちしたく
なってきちゃった。。。。

そっそれは。。。はっはら！

私の裸みて勃起してたの？

あっあの。。。その。。

えっっ！？

あっあのねもっくん。。。
お。。。おちんちん勃起してる？？





ほあ

ほあ

ドキ

ドキ

。。。さよころいも

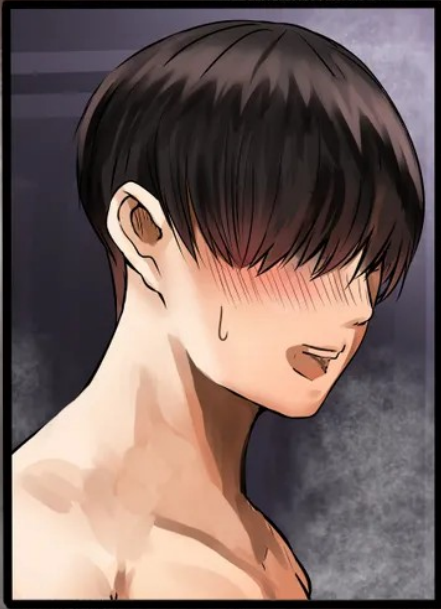
この先も。。。

えっ。。

いやその。。。

あの。。。





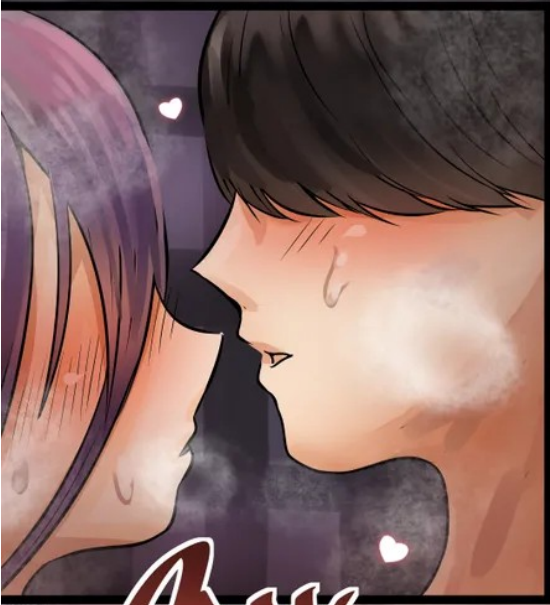
あつ。。。
かつ神崎さん。。。



もつ君っ。。。
キス。。。しよ！

ほあ
ほあ
ドキ

ドキ



クッ



はるかさんの舌
すげえやわらかい



んんん

んん

んんん



んん

んん

さっきは
気づかなかったけど
唾液。。。意外と
ねっとりしてる
えっちだ。。。

もっくん
のおちんちんが
あたってると
興奮してるんだ



んっ

んっ

んっ



舌も奥のほうまで
ねっとり絡まれている
なんか気持ち
よくなってきた



ん
ん
ん
ん
ん

ん

ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん
ん

ん
ん
ん
ん
ん

ん





んっ
んっ
んっ

んっ
んっ
んっ

んっ
んっ

んっはぁっ



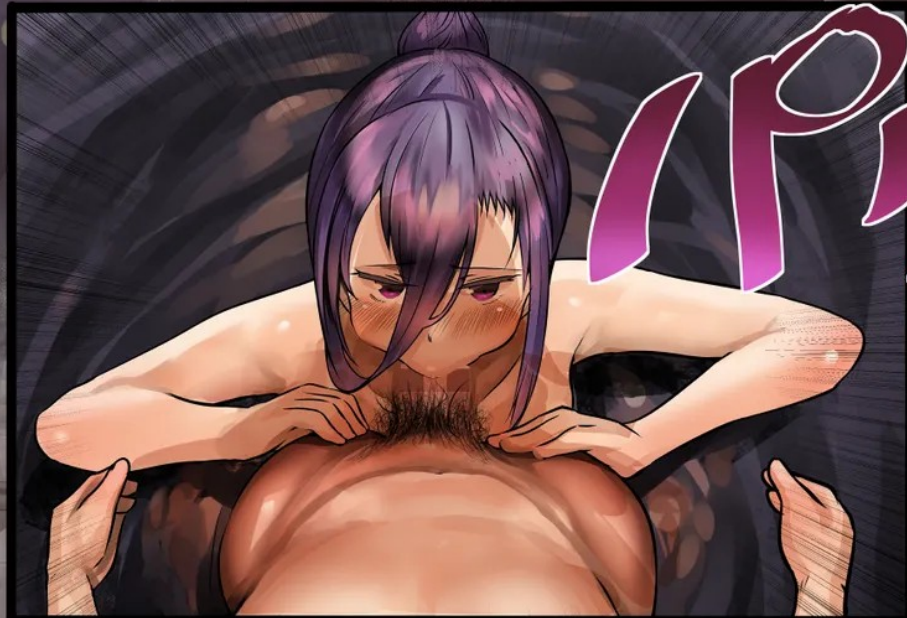


早く……!

えっ……?

もっ君
起ち上って……

ハア



パクッ

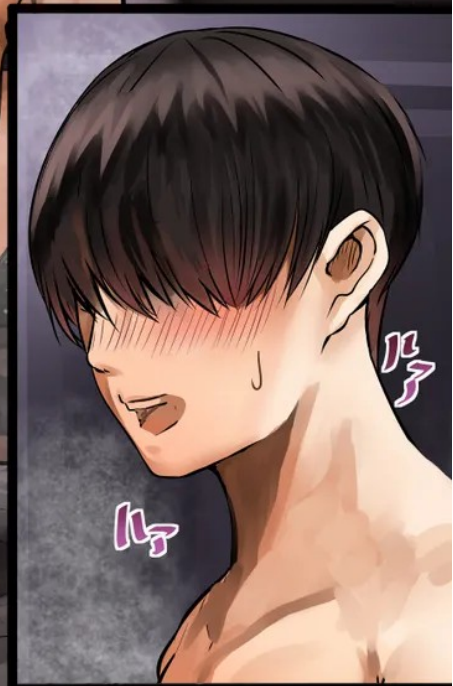


あッ

パクッ

パクッ

あッ
急に
……
神崎さん
……
かつ……



パクッ

パクッ



神崎さん
僕……もう……っ

はぁ

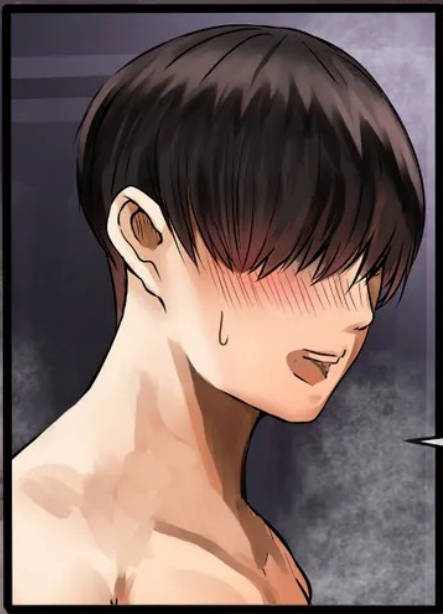


アッ アッ

んっ…
んっんんーよ
(イっていいよ)



アッ アッ



す…すいません
すぐにイっちゃって



すっごい濃い…
もっくんっ!
まだ…できるよね?



あはあ



チヤッ...





まだいけるよね
早く挿入れて

ちゃっ...

はっ...
はい!





あゝ

あゝ

ん



おちんちん
膣内に
入ってきてる
あんっ...!!

ん

そうつぶやいたはるか
女性器からは愛液と先ほど
子宮に注がれた精液がツーンと
糸を引いて零れ落ちた

あん

んっ

はん

より深く挿入すると
白濁した体液がぷちゅちゅいと
声を上げ、はるかには恥ずかしそうに赤面していた

んっ







子宮の奥深くに
茂久田のちんぽが
突き刺さる
同時に子宮から
押し出された
愛液と精液が
どろりと溢れだした
茂久田は剥き出しの亀頭を
子宮口にこれでもかと
押し付けていた

どろり

あゝ

ん

んはっ

あゝ



か…神崎さん
大丈夫ですか…？
いたく…ないです？

だ…だいじょうぶ…
だから…も…も…
も…と子宮の奥のほうを
おちんちんで
クニクニして…

は…はー

あ…でも
やさしく…してね

はー
はー

はー

はー

はー





やばっ神崎さん
すごい気持ちいです
腰止まりませんっ

うんっ
私もっ…

んっしゅごっ
奥つきもちいい

もっど
奥まで
突いてっ



アッ

アッ

アッ

アッ

あっ

あっ

あっ



んあ

ああ
あ

ああ

あ
あ

あ
あ

あ

あ

神崎さんのおまんこっ

すごいですっ

奥のほうをギュっつつくと

子宮が痙攣してちんこを

求めてきてるのがよくわかりますっ

なっ

何。。。は。。。恥ずかしいこと。。。あっん

いっ。。。らっ。。。てんのよ

そ。。。そんっ。。。あん。。。こと

ないっ

柔

柔

柔

柔

柔



『ずるるるるおっ』

子宮口付近まで挿入されたちんぽを
ゆっくりと膣回あたりまで引き抜いた

『…あっんっ』

同時に亀頭カリ部分で掻き出された
本気汁と精液がツウッと温泉に零れ落ちる

ずるるる

『うわっすごいんですっ…神崎さん
すごい本気汁でてますよ…』
『めっっちゃ濡れてます…』

『もわあ。。。』

精液と愛液が混ざった酸味感のある刺激臭が鼻をつく

マンコ入り口付近の抜けるか

抜けないかの微妙な位置で

小刻みなピストンを繰り返す。。。

『ぬびゅ。。。ぬびゅ。。。』

あっ

んっ

あっ

くわ

くわ

七

飛び散る愛液で茂久田の陰毛は
テカテカに照り輝いていたピンク色の膣はだらしなく
よだれをたれくぱくぱくとちんぽを啜えて離さない

また膣内の奥の奥まで
ニューっと
ちんぽを挿入する

愛液で濡れに濡れたまんこは
実にスムーズにちんぽを
子宮口まで導いた

「んっ……また……奥まで……きた」

「あっ……おしっこーでちゃう」

「ほ……ほんとですかっ」

「出しちゃってもいいですよっ」

「僕は気にしませんから」

「わ……私は気にするんだよっ」

「ぐんっ」

はっ

はっ



「んああ……あれ……でも」

「奥のほう突かれると……
おしっこでそんな感じがするだけで……」

「んっ……なんか……でないっ……」

「んっああっ」

茂久田のちんぽが
Gスポットを刺激するたび
尿ではなく愛液が
ぷしゅっぷしゅっ
噴きだしている

あ

あ

あ

ん

ん

ん

ん

ん





「はあはあ」

これが中イキってやつかな
ずっとキモチイイのが続いて
頭真っ白になっちゃう
おしっこ出そうなのに
全然でないし……

おかしくなっちゃったかも……

「んんっ……」

あ

あ
あ
ん

ん

ん

ん

ん

愛液でヌルヌルになったちんぽが
Gスポット付近を連続で刺激する。。。
すると白濁した愛液がとろっと染み出し
きらりと光る体液の糸を形作る

『ぢゅぢゅぢゅぢゅ』

次第にピストン音が淫靡な音に変化していく

その音がさらにふたりの気持ちを高め
より多くの粘液が分泌されるのであった

スッ

スッ

スッ

スッ



ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん

ん

あぁっ……この体位しゅごいっ

当たったことないところに

おちんちんがこっつくつくんってしてっ……!!

きもちよしゆぎる……んっ!

あぁあ

ビク

ビク

んっ
んっ
んっ

『きゅんっ』

膣内の内側をこするたびに
強く膣内が収縮し、ちんぽを締め付ける

「僕もすげえ気持ちいいですよっ」

「突くたびに締め付けられて
すぐイっちゃいそうですよっ」

「いよいよ一緒にイこっ」

あぁあ

ビク

ビク

んっ
んっ
んっ

「神崎さんっうれしいですよっ」

「本当はこんなことしちゃだめなのにっ」

「わたしはっ全然したかったけどっね」
「神崎っさんっ」

神崎さん
愛してます

!?

あっ……

わ・私も……

もっくんのこと……

愛してるっ!

ぽ
ぽ

ぽ
ぽ



神崎さん
もうイキますっ

うんっ
膣内に……
膣内に濃ゆい精液
いっぱい出てっ！

はいっ！

ん
ん

ん
ん



Call



ク
ク
ク

ク
ク
ク

ク
ク
ク





あ...
ん...

んんん

ん

んんん

んん

んん

んん



んんん

あぁあ

ドボオ

ぐぐ

ぐぐ

その後も二人は体位を変え
何度も何度も愛し合い、子宮は精液で
パンパンになっていた。

汗だか温泉だかわからないほど
ぐちゃぐちゃになりながら、
ただ体を重ねるふたり……
すでに数時間たっていた

はっ

はっ

アッ

アッ

アッ

ん

アッ

アッ

アッ



はぁっ

あゝ

んっ

んっあゝ

水面には精液の花が
プカリと浮いていた

「パンパンパン」と
ピストン運動をするたびに
パンパンに膨れた膣内から
精液が漏れ出しくる

ん

ん

ん

か。神崎さんすいません
また。イっちゃいます
な。膣内に出してもいいですか？

はあ

あ

ん

う。うんっ。うんっ。
また出して。
もっくんの精液で膣内
いっぱいにしてっ！



クツツ

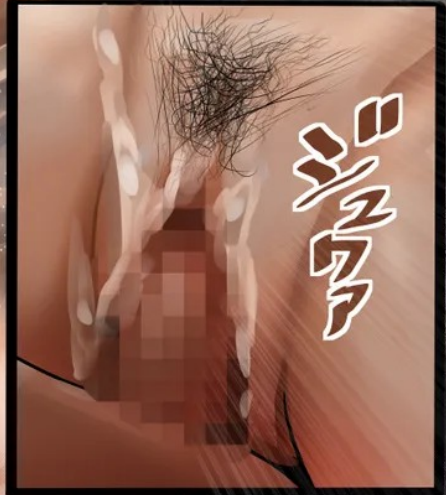
はま

あ

ん

フ

ゴ



ゴ

ム

中出し後も二人は

満足することではなく何度も何度も子宮に
熱い精液を注ぎ込み獣のように情熱的に

はあ

あ

ん

ん

ん

ん

体を重ね合い温泉中が精液と
愛液の香で満ちても一晩中、温泉につかっは
セックスを繰り返していたのであった